

看護系大学院における教育の基準策定と評価に関する調査研究

A. 回答者についてお尋ねします

I. 所属大学の設置形態に該当する番号に○をつけてください。その他に○をつけられた方は、()内に設置形態をご記入下さい。

1. 国立大学法人
2. 公立大学・公立大学法人
3. 私立大学
4. その他 ()

II. 所属大学が現在行っている看護学の教育について該当する番号に○をつけてください。

1. 大学院修士課程教育
2. 大学院博士課程(前期・後期)教育
3. 大学院教育課程を設置準備中

III. 貴研究科の修士課程・博士前期課程、博士後期課程で授与している学位について、該当する番号に○をつけてください。その他に○をつけられた方は、()内にその学位をご記入下さい。

修士課程・博士前期課程	博士後期課程
1. 修士(看護学)	1. 博士(看護学)
2. 修士(保健学)	2. 博士(保健学)
3. その他()	3. 博士(看護学)あるいは博士(保健学)
	4. その他()

IV. 回答者の職位について該当する番号1つに○をつけてください。その他に○をつけられた方は、()内に職位をご記入下さい。

1. 学長 2. 研究科長 3. 専攻長 4. 教授 5. 准教授
6. その他 ()

B. 博士後期課程修了生が修得すべき能力についてお尋ねします。

以下に示す修得すべき能力、およびその能力の内容に関する、表現ならびに内容に関して、「同意する」「同意しない」の該当する箇所に○をご記入ください。「同意しない」場合は、その理由もご記載ください。

I. 看護哲学を追求する

看護哲学は、看護の学識者として責任と役割を果たす上での基盤となるものである。それ故、博士後期課程修了生(以下修了生とする)は自らの看護および人生経験を通して看護観や世界観を深めていくと同時に、普遍性を有する看護哲学を追求し続けることが求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
I. 看護哲学を追求する			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 科学の歴史や哲学を看護（学）との関連で理解している			
2. 学問体系における看護学の位置づけを理解している			
3. 看護倫理について深く理解している			
4. 看護の学識者としての倫理観を備えている			

Ⅱ. 知識や技術を創造する

修了生は、専門分野で独立した学術的な水準の研究ができ、指導できる力を有する。看護の学識者としての責任と役割を遂行するためには、「新たな知識・技術の創造」は欠くことのできない能力として位置づけられる。新たな知識・技術の創造とは、社会・医療の課題を解決するために、看護学のみならず他の学問領域の知識をも活用して、現存の看護学の知識・技術を革新し、新たな知識・技術を拡張・創造することであり、以下のことが求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
Ⅱ. 知識や技術を創造する			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 専門領域において創造的な研究を実施できる			
2. 学際的な研究チームにおいて看護研究を推進する			
3. 他の科学分野の見解も含め看護の知識を多面的に検討できる			
4. 新しいエビデンスを探求し、看護の知識を創造する			
5. 研究と実践に根づいた知識・技術の発展を牽引する			

Ⅲ. 発言力をもつ

発言力とは、看護の知識や技術を創造する過程において、その成果や生み出された新しい知見を研究論文として蓄積し、広く社会に発信・浸透させる責任を含む能力である。この能力は、特定の看護学分野に示していくことにとどまらず、学際的かつグローバルに取り組むことが求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
Ⅲ. 発言力をもつ			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 科学的考察や論議を深め、新たな見解や知識を生み出す			
2. 研究や実践における実績を発信する			
3. 新しいエビデンスを探究し、次世代に伝える			
4. 生み出した成果を広く社会に発信し、その真価を問う			
5. 論文投稿や発表を通して、学際的に看護を伝える			
6. 新たな看護現象や知識について論述し、国際的に公表する			

Ⅳ. 変革力をもつ

看護の学識者として学際的な研究に取り組み、得られた知見を基にケアをデザインする能力が求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
Ⅳ. 変革力をもつ			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 専門の学問分野を導くという役割と責任感を持ち、リーダーシップを発揮する			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
2. 看護実践やケア環境を改善するために、研究を通して実践現場と協働する			
3. 看護学に基づくケアの改革につとめる			
4. 社会を変革するために政策的な動きが必要であることを理解し行動できる			

V. 次世代を育てる教育力をもつ

修了生は、専門領域に関する知識や新たな知見を次世代に伝え、看護の実践を指導し、看護専門職を育成する教育、研究の活用や指導によって研究者を育成する教育に携わることが求められる。また、次世代への教育方法の改善を探究し続けることも求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
V. 次世代を育てる教育力をもつ			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 新しい看護学の知見を次世代と共有する			
2. 教育への関心をもち、教育方法の改善を探究し続ける			
3. 研究者としてメンターとなる			

VI. 看護学を発展させる

看護学の発展とは、今まで行ってきたことや、新しく作ったものを見直し、ケアの重要性を再確認するという積み重ねによって行われる。したがって、看護科学を発展させることや、専門とする学問領域を導いたり、牽引したりすることが求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
VI. 看護学を発展させる			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 理論構築や看護に必要な理論の方向性を考える			
2. 他の学問領域の知識や理論の成り立ちを踏まえ、看護学への適用を検討できる			
3. その国に適した看護学の発展を主導していける			

Ⅶ. 学際的な視点をもつ

看護は学際的学問であるため、看護学の発展のためには、学際的な研究ができることや、学際的なリーダーになることが求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
Ⅶ. 学際的な視点をもつ			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 保健医療福祉における看護学の目的を明確にする			
2. 学際的に連携、協働できる			
3. 学際的な研究チームを構成し、主導していける			

Ⅷ. グローバルな視点をもつ

看護は広く包括的に物事や事象を捉える必要があるため、全世界的な視点に立った看護学を発展させていくことが求められる。

能 力	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
Ⅷ. グローバルな視点をもつ			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
1. 世界を見通した看護を考えていける			

修得すべき能力の内容	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
2. 国際的な視点から日本の看護学の特徴を理解できる			
3. 看護における全世界的な課題について、国際的に研究を推進する			

C. 博士後期課程修了生が果たす責任と役割についてお尋ねします。

本プロジェクトでは、博士後期課程修了生は、＜看護の学識者としての責任と役割を果たす＞ことが必要であるとしています。

このことに、「同意する」か否かをお答えください。「同意する」「同意しない」の該当箇所に○を記入し、「同意しない」場合は、その理由をお書きください。

役割	同意 する	同意 しない	「同意しない」理由
看護の学識者としての責任と役割を果たす			

■その他、本研究に対するご質問・ご意見があれば、お書き下さい。

以上で終了です。
回答へのご協力、ありがとうございました。